

「地域総合農学科」 で、何を学ぶことができますか？

本学科では、食と農に関する生産から販売までの一貫した知識・技能、地域社会の抱える課題を包括的に把握し創生・発展に繋がる思考力・行動力を養い、地域産業振興に貢献する力を総合的に身につけることができます。

地域総合農学科の特徴

2つのコースがあります。応用植物科学コースでは、作物の生産・利用技術、病虫害防除、品種改良などについて学び、地域の農業生産を支える力を習得する教育を行っています。また、地域共生コースでは、農業工学・環境保全・農業経済などについて学び、環境保全の実現や地域農業の発展を支える力を身につける教育を行っています。

入試情報

前期日程 前期日程は各コースで募集定員があります。また、地域共生コースでは、前期日程および後期日程ともに、**文系パターン**または**理系パターン**で試験を受けることができます。

学科			定員	大学入学共通テスト（1/18・1/19）										個別学力試験（2/25）						
				英語	数学		国語	理科					地歴	公民	情報	英語	理科			主体性
					①	②		物	生	化	地	物基/ 生基/ 化基/ 地基					生	化	物	
地域総合農学科	応用植物科学コース		24	○	○	○	○	2科目		—	1科目		○	○	1科目		—	○		
	地域共生コース	パターン① （文系）	28	○	○	○	○	1科目			2科目		○	○	1科目			○		
		パターン② （理系）		○	○	○	○	2科目		—	1科目		○							

後期日程

学科・コース			定員	大学入学共通テスト										個別学力試験		
				英語	数学		国語	理科				地歴	公民	情報	英語	主体性
					①	②		物	生	化	地					
地域総合農学科	応用植物科学コース		8	○	○	○	○	2科目		—	1科目	○	○	○		
	地域共生コース	パターン① (文系)		○	○	○	○	1科目			2科目	○	○	○		
		パターン② (理系)		○	○	○	○	2科目		—	1科目	○				

応用植物科学コースの6つの専門分野

専門分野	主な授業
作物学	栽培学、作物学、工芸・飼料作物学、作物学実験
園芸学	園芸学I、園芸学II、青果物利用学、青果物生産学、園芸学実験
植物遺伝育種学	遺伝学I、遺伝学II、植物生理学、ゲノム科学、植物育種学実験
植物病理学	微生物学、植物病理学、植物感染機構学、植物病理学実験
応用動物昆虫学	応用動物昆虫学、農薬学、総合防除論、応用動物昆虫学実験
植物生産科学	農業生産技術学、土壌肥料学、農場実習

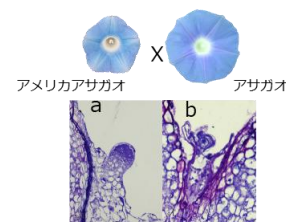
- ・ 研究室への配属は3年生後期から行われ、卒論研究は4年生からスタート
- ・ 大学院では、国立科学博物館植物研究部の連携教員による研究指導も受けられます

研究紹介 他の専門分野の研究例はホームページで紹介しています。

研究例1 植物遺伝育種学での研究 (雑種強勢による農業生産力の向上)

当研究室では、雑種で現れる成長の変化や雑種を作成時に直面する障壁についてイネやアサガオを用いて研究を行っています。

雑種第一代では両親の組み合わせによって両親のどちらよりも旺盛な生育を示す雑種強勢が現れることがあります。雑種強勢を利用したハイブリッド品種は収量、品質、ストレス耐性、開発者の知的財産権の保護など多数の優れた面を持ちます。



受粉後3日目の自殖胚aと雑種胚b

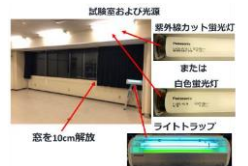
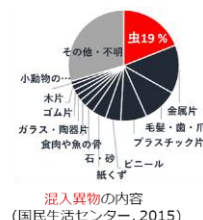


雑種強勢を示すイネの組み合わせについて探索を行っています。

研究例2 応用動物昆虫学での研究 (食の安全を確保する害虫管理)

食品工場における害虫類の防除

食品への虫の混入は大きな問題となります。食品工場内では殺虫剤の散布が制限されます。そこで、害虫の生息状況を速やかに把握できる調査方法や殺虫剤を使用しない防除方法の開発を行っています。



虫を誘引しない光源と捕獲効率の高いライトトラップの探索

ハダニ類の生態、分類、防除

植物の葉の汁を吸うダニの中には、農作物を加害する害虫種もいます。

当研究室では、害虫種や非害虫種にこだわらず、その生態を明らかにしています。その過程で多くの新種を発見しています。



ナスやトマトの害虫ミツユビナミハダニ



阿見キャンパスで発見された新種ニョゴツメハダニ

地域共生コースの6つの履修のポイント

	主な授業
水と土	水文学、水理学、農業水利学、農地環境工学Ⅰ
アグロエコロジー	生物生産機械学、農作業学
農村計画	農村計画学、ランドスケープ整備論
環境情報	地理情報学、地球情報学、測量学、プログラミング基礎
農業経済	環境経済学、農産物流通論、農業史・環境史、農政学、農業経営学
測量士補特別コース	水理学、土壌物理学、応用力学、流体力学

- ・ 研究室への配属は3年生後期から行われ、卒論研究は4年生からスタート
- ・ 測量士補特別コースは卒業時に認定

研究紹介

以下は、ほんの一例です。詳しくはホームページをご覧ください。

研究例1 農業と環境の調和を目指した流れ・魚類の調査とモデリング

農業水路や河川での流れの観測とシミュレーションにより、農業と魚類が生息する環境の関係や魚類の保全施設について研究しています。

研究例2 データサイエンスとスマート農業による環境再生型農業

不耕起有機栽培を基本とした環境再生型農業の効率化に向けてデータサイエンスやスマート農業の適用に取り組んでいます。

研究例3 関係人口の獲得で中山間地域を元気に！

都市農村交流や二地域居住、そして移住・定住の促進に向けた研究を通じて、先行的に過疎化が進む中山間地域を応援しています。

研究例4 地域と地球環境問題解決を目指して

地域や地球のさまざまな問題に対して、情報科学の手法を用いた現状分析や、モデルなどを用いた将来の予測などを行っています。

研究例5 フィールドワークに基づいた地域農業の社会経済的分析

コメ・コメ加工品の輸出の実態、農業経営への支援政策の評価について、行政や農協、農業者に対する聞き取り調査から研究しています。



卒業生の進路

本学科の卒業生は、**公務員への就職実績が高く**、また大手企業にも多く輩出しています(就職先のみ掲載)。

応用植物科学コース

茨城県庁、宮城県庁、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、常総地方広域市町村圏事務組合常総広域消防、科学飼料研究所、雪印種苗、イカリ消毒、ニチレイフーズ、正栄食品工業、高瀬物産、松阪興産、三澤牧場、田中食品興業所、中島農園、バルカディア、タマムラデリカ、アイ・エス・ビー、キューソー流通システム、クロサワファーム、フジ環境サービス、三菱UFJ銀行、名古屋鉄道

地域共生コース(令和5年度実績)

茨城県庁、千葉県庁、埼玉県庁、栃木県庁、群馬県庁、山梨県庁、滋賀県庁、甲府市役所、阿見町役場、全国農業協同組合連合会、栃木県農業協同組合中央会、取手市商工会、カネカサンスパイス、浅川組、大東建託リーシング、farmo、東日本電信電話、DAIKIN工業、DCM、常陽銀行、静岡銀行、セゾン自動車火災保険、小金井不動産、タイムズモビリティ株式会社、ジーシー、サーバーワークス、NTCシステム

地域総合農学科の 教員によるミニ講義

本学科の教育・研究をもっと知っていただくために、YouTubeにミニ講義をアップしております。お時間がある時に右記のQRコードにアクセスし、ご視聴ください。



地域総合農学科 内田晋先生

経済学と環境経済学
ー経済学の立場から環境問題を考えるー



地域総合農学科 木下嗣基先生

地理情報学
～農業と地図と人工衛星の関わり～



地域総合農学科 佐藤達雄先生

熱いシャワーで植物も目を覚ます！
熱ショックによる植物免疫の活性化



地域総合農学科 古谷綾子先生

植物が病気になる仕組みを知る
～病気を防ぐための方法を探る



地域総合農学科 前田滋哉先生

魚類を守る持続可能な農業用水の利用
ー数値計算による魚類生息環境の評価ー



茨城大学農学部の詳細な情報は、本学ホームページでご確認ください。

<https://www.agr.ibaraki.ac.jp/>